

Seminar on Promoting the Status of the Artists and Culture Professionals in Japan

日本における芸術家・文化の担い手の地位向上に関するセミナー プログラム

(プログラム日本語概要訳)

日時： 2023年10月3日(火) 15:30~18:00 (開場15:00)

会場： 早稲田大学 (早稲田キャンパス 8号館 B102 教室)
(南門から 8号館入口又は大隈銅像側入口から 8号館入口より地下1階)
<https://bit.ly/3Lk8AHr>

形式： 対面 (オンライン配信無、記録用ビデオ収録有)

言語： 日本語

参加登録： <https://bit.ly/44V3PLk>

プログラム： 約150分 (2.5時間)

1. 根拠と背景

文化クリエイティブ(創造)産業は、社会的・経済的発展の主要な原動力です。文化クリエイティブセクターは世界経済に大きく貢献しており、世界 GDP の 3.1%、全雇用の 6.2% を占めています。日本においても、文化庁によると 2019 年の文化 GDP は約 10 兆円を占め、成長指標として 2018 年に「文化芸術振興基本計画(第1期)」が定められおり、「未来投資戦略 2018」では「2025 年には文化 GDP が 18 兆円に達し、GDP の 3% に相当する」と示されましたⁱ。クリエイティブな人材の育成と確保はこのプロセスの中核であり、芸術家や文化の担い手の公正な労働条件や報酬、研修の機会を確保する統合的な政策と規制の枠組みが必要です。

「文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約」(2005 年、以下「文化多様性条約」)と「芸術家の地位に関する勧告」(1980 年、以下「1980 年勧告」)が示す通り、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)はすべての加盟国に対し、芸術家の職業的、社会的、経済的地位を向上させるよう求めています。これは、訓練、社会保障、雇用、所得、税制の条件、移動、表現の自由に関する政策や措置の実施を通じて行われるべきものであり、芸術家が、その構成員の利益を代表し擁護することのできる労働組合や職業団体に組織される権利も認めています。

COVID-19 の大流行は、世界のあらゆるレベルで文化セクターの構造的な脆弱性を露呈し、報酬、社会的・経済的便益(年金、育児、失業給付、医療へのアクセスなど)へのアクセスとい

う点で、以前から存在していた不平等を悪化させました。短期契約やプロジェクトベースの仕事をする個人、零細組織や企業（文化部門の雇用と運営形態の大部分）は、最も大きな打撃を受けています。このような不安定性から、これらの課題に対応すべく関係者間で議論し、国全体で芸術家の地位の向上を担保するために協働展開することが望まれています。

日本では近年、「多様な働き方」に対する社会保障の充実が重要な政策課題として掲げられています。その中、平時でも無報酬で不安定な活動基盤に置かれているフリーランスが圧倒的に多いのが文化クリエイティブセクターです。パンデミックに伴い、文化統計やデータ収集の充実の必要性の認識の高まりとともに、フリーランスを含む芸術家と文化の担い手という職業人の社会保障のあり方について議論を醸成することが、これまで以上に急務であるとの認識が高まっています。

本セミナーは、日本の文化分野で働く人々の可能性を最大限に引き出すために、行政、市民社会、学术界、民間企業、個々の芸術家や文化の担い手等の関係者がつながり、議論し、共にアクションを形成するためのプラットフォームを構築することを目的とし、豊岡演劇祭2023のポストイベントの一環として開催するものです。

1. 芸術家と文化の担い手の地位が国際協定のもとでどのように保護されているのか、国際社会における現状について、理解を深める
2. 芸術家や文化の担い手を支援する、国の法的枠組みと施策について、理解を深める
3. 文化クリエイティブセクターと芸術家や文化の担い手の地位の現状について話し合う
4. 分野横断・官民連携に資する、様々なステークホルダー間の対話と情報交換を促進する
5. 日本の芸術文化のさらなる発展のために、芸術家や文化の担い手の地位を向上させ、強化するための可能性を探る

2. 参加者、形式、期待される成果等

主催：

- 国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）東アジア・マルチセクトリアル地域事務所

パートナー

- 豊岡演劇祭実行委員会
- 一般社団法人 Japanese Film Project (JFP)
- 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）
- 文化芸術推進フォーラム
- art for all
- 早稲田大学
- 特定非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）

参加者

文化クリエイティブセクターに関係する多様な参加者を招聘予定：

- 芸術家の地位に関する各分野の政府関係者（労働、文化関係等）
- 映画、舞台芸術、視覚芸術領域等の芸術家や文化の担い手
- 市民社会組織
- 研究者
- ジャーナリスト、メディア関係者等、その他関係者

開催形式

対面（オンライン配信無、記録用ビデオ収録有）

期待される成果

1. 日本および国際社会における芸術家や文化の担い手の地位に関する理解を深める
2. 芸術家や文化の担い手を支援するための法的枠組みや施策に対する認識の向上
3. 文化クリエイティブセクター関係者の組織的・個人的ネットワークの強化
4. 芸術家や文化の担い手の地位に関する議論に、領域を超えてより多くの人々が参加する
機会の拡大

3. プログラム（変更の可能性あり）

（敬称略）

1. 開会挨拶： 5分

シャバス・カーン 国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）東アジア・マルチセ
クトリアル地域事務所所長

2. 趣旨・概要説明： 15分

坪井ひろ子 EU/UNESCO 文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約エクス
パートファシリティー・メンバー/コンサルタント

（セミナー及び芸術家の地位にかかるユネスコの取組について - 芸術家の地位
に関する勧告および文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約）

3. 基調講演・発表： 15分 × 3

歌川達人 一般社団法人 Japanese Film Project (JFP) 代表理事

「映画業界のジェンダー格差及び労働実態の調査報告と今後の課題」

榎野睦子 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）法制広報部課長

「実演家の働き方の特性とセーフティネットの必要性」

秋野有紀 早稲田大学教授/公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団
協）芸術家の社会保障等に関する研究会座長

「“芸術家”の“地位”？—たちどまって、考えるための道工具箱」

(休憩 10分)

4. パネルディスカッション～芸術家の地位を巡って～： 65分

○ パネリスト

松岡大貴 豊岡演劇祭実行委員会プロデューサー

大和滋 文化芸術推進フォーラム事務局長/公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）参与

川久保ジョイ art for all 共同代表

歌川達人 一般社団法人 Japanese Film Project (JFP) 代表理事

○ コメンテーター

秋野有紀 早稲田大学教授/公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）芸術家の社会保障等に関する研究会座長

○ モデレーター

坪井ひろ子 EU/UNESCO 文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約エキスパートファシリティー・メンバー/コンサルタント

5. 閉会挨拶： 5分

松岡大貴 豊岡演劇祭実行委員会プロデューサー

6. 事務連絡等：

坪井ひろ子 EU/UNESCO 文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約エキスパートファシリティー・メンバー/コンサルタント

ⁱ https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/bunka_gyosei/pdf/93911701_03.pdf
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/hoshin/index.html
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/seisaku/16/01/pdf/r1406986_08.pdf